

「自分の同胞の救いを切に願う」

ローマ9：1－5

堀田修一 24・1・21

ローマ人への手紙は、教理が、1－11章で語られ、恵みへの応答、実践の生活が12－16章で語られます。但し、本日から味わう9－11章は、イスラエル民族に関わる神の救いが語られます。

I パウロの同胞への魂の救いへの情熱、熱い願いから学ぶ

「私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。私は、自分の兄弟たち、肉による自分の同胞のためなら、私自身がキリストから引き離されて、のろわれた者となってもよいとさえ思っています」：2，3。

1. パウロのイスラエルの魂の救いの情熱の前に、神が持つておられるパウロや私たちへの先行的救いの愛、情熱があることを覚えたい。「キリストは、ご自分が私たちのためにのろわれた者となることで、私たちを律法ののろい（神の正しい律法によるさばき、のろい、地獄の永遠の苦しみ）から贖いだしてくださいました。『木（十字架）につけられた者はみな、のろわれている』と書かれてあるからです」（ガラテヤ3：13）。キリストは私たちを愛して私たちの魂がのろわれて滅びないように十字架で私たちの身代わりに死なれたのです。そこには、人知をはるかに越えた深い私たちの魂の救いへの情熱がありました。感謝！
2. パウロは、キリストの十字架により、自分が神ののろいから救われた恵みを心から感謝していました。神は、ペテロをイスラエル人に福音を伝える使命を与え、パウロには異邦人に福音を伝えるように使命を与えられました。パウロは、異邦人、つまり全世界の国の人々を愛して福音を伝えました。と同時に自分の同胞、イスラエルの人々への愛も変わらず持っていました。主の救いの素晴らしさを自分で味わいつつ、主を信じない自分の同胞のイスラエルの人々の救いを願うあまり、自分がキリストから引き離されて、のろわれた者となってもよいとさえ思ったのです。これは、パウロにしか言えないことかもしれません。
3. 私たちへの適用。私たちが、聖書を読むときに、自分に適用することが大切です。私たちが適用すべき同胞は、故郷の人々、家族、親族、知人、友人でしょう。この人々に、福音を伝えましょう。立派な伝道はできないと思わず、福音版、トラクトを渡すことも用いられます。※証し。私は、主を信じ救われて、主の救いの素晴らしさのゆえに、「主よ、私はみこころならどこの国に遣わされても福音を伝えたいです」という思いになりました。と同時に、生まれ故郷の熊本の人々にも愛の重荷が常にありました。パウロの同胞への気持ちが分かります。深いご計画をお持ちの神は、私を九州から北海道に遣わされました。実は、北海道聖書学院で学んでいる時も、母教会の牧師は、「北海道で、訓練を受けた後、いつか鹿本教会に戻って奉仕をして下さい」と言われていました。但し、神の思い、御計画は人の思いと違い、私は、この45年間、北海道の方々を愛して、冬の厳しさを受け止めて歩む方々を尊敬して、伝道牧会をするように導かれました。神の導きと支えに感謝します。と同時に、同郷の人々、親族への伝道、母教会への応援も、でき

る範囲で主はさせて下さっている恵みに感謝します。証し：父、母、姉、叔父叔母、いとこ、母教会。本日の説教の後に、讃美歌476をもって「イエス様のほかに救いはない」と賛美しましょう！

Ⅱ イスラエル民族の霊的特質＝「彼らはイスラエル人です。子とされること（神の養子とされること）も、栄光（栄光に満ちた神がその民の中に臨在されること）も、契約（神が神の民と結ばれた諸々の契約、約束）も、律法（モーセによる律法。神を愛し人を愛する。神を畏れ敬い、人の尊厳、人権を重んじる。国々の法律の基礎となっている）の授受も、礼拝（律法の基づく真の神礼拝）も、約束（メシヤ、救い主に関する約束）も彼らのものです。父祖たち（アブラハム、イサク、ヤコブなどの父祖）も彼らのものです。キリストも、肉によれば（人間としての誕生においては）彼らから出ました」：4，5。イスラエル人は、このように神からの特権を与えられましたが、主イエスを、救い主、神と信じなかったのです。

1. このローマ9－11章のイスラエルの救いについて聖書から確認すべきことがあります。次のみことばは正しい聖書解釈の鍵です→「あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです。キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。ユダヤ人（イスラエル人）もギリシャ人（すべての国々の差別）もなく、奴隷も自由人もなく（社会的な地位で差別されない、神の目に平等、公平）、男も女もありません（男も女も人格的に平等）。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。あなたがたがキリストのものであれば、アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです」ガラテヤ3：26－29。イスラエルを神が選ばれたのは、イスラエルが、神の素晴らしさを、すべての国民に伝えるためだったのです。「地のすべての部族は、あなたによって祝福される」（創世記12：3）。

2. パウロの愛の熱い願いは、イスラエルの一人一人が自分の罪を認めキリストを救い主、主、ヤハウエ、神と信じ救われることでした。誤解してはなりません。主イエスを信じなくてもイスラエルの国家として特別に救われるとは聖書は教えていません。現在、戦争を行っているイスラエル国家を神は特別扱いされません。但し、国としてではなくイスラエルの一人一人、世界中に存在するユダヤ人が、福音を聞いて、国や民族としてではなく、一人一人が神の前に罪を認め、主を信じて救われるのを望んでおられます。パレスチナの人々の救いも望んでおられます。キリストはイスラエル人のためだけではなく、すべての国の人々の罪のために十字架で死に、復活されました。差別はありません。

Ⅲ 「キリストは万物の上にあり、とこしえにほむべき神です。アーメン」：5

1. このみことばは、貴重なみことばです。キリストが、「神のひとり子」「御子」（Iヨハネ4：9，14，15）と聖書で語られます。「神のひとり子」「御子」という表現だけですと、人間は、間違った解釈をします。ある人は、父なる神のほうが偉大で、神のひとり子、御子は、父なる神から生まれた時に存在するようになった。つまり、御子は永遠の始めから存在した神ではないと誤解します。聖書全体は、御父、御子、御聖霊は永遠の初めから存在され、三位一体のお方と教えています。御父とひとり子の御子の愛し合う関係、交わりは永遠の初めから持っておられるのです！神を信じる私たちも神と人を愛する人へ。

2. 「キリストは万物の上にあり」。キリストは、父なる神と共に天地万物を創造し、支配しておられる偉大な神です。あなたの人生、起こる出来事も支配されている神です。神はすべてのことを益とされます。「神は、…御子によって世界を造られました。御子は神の栄光の輝き、また神の本質の現われであり、…万物を保っておられます。御子は（私たちの）罪のきよめを成し遂げ、…大いなる方の右の座に着かれました」ヘブル1：2，3。現在、偉大なキリストは、私たちのために天で、とりなしておられます！

3. 「とこしえにほむべき神です。アーメン（その通りです）」：5。私たちは、父なる神を、御子なる神をとこしえにほめたたえましょう。主の再臨後の新天新地の万物による礼拝＝「御座に着いておられる方（御父）と子羊（御子）に、賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくあるように」黙示録5：13

4. 父なる神が「御子については、こう言われました。『神よ。あなたの王座は世々限りなく、あなたの王国の杖は公正の杖。あなたは義を愛し、不正を憎む。それゆえ、神よ、あなたの神（父なる神）は、喜びの油で、あなた（メシヤ）に油を注がれた。あなたに並ぶだれよりも多く。』、またこう言われました。『主（ヤハウエ、エホバ）よ。あなたははじめに地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。これらのものは滅びます。しかし、あなたはいつまでもながらえられます』ヘブル1：8－11